

## 聖徒は祈る

(詩篇32・1〜11)

## 一、表題

表題に「ダビデのマスキール」とあります。この表題から分かりますことは、全イスラエルの王であったダビデの死後、詩篇を取りまとめた方が「ダビデ王がつくった詩」として「32篇」を加えたということですが、次に「マスキール」ですが、教訓としての詩篇、ないしは交互に歌い上げる詩篇、の意味があるようです。ですが、教訓の詩篇と理解するのが一般的なようです。たしかに32篇は、罪を隠し続けた者が罪を告白し、背きを赦された、という経験から、教訓と言える内容になっています。しかし、交互に歌い上げる詩篇と受け取るなら、1〜2節、3〜4節、5節、6〜7節、8〜9節、10〜11節と区分されているものを、二手のグループが交互に唱える姿を思い描いてください。旧約時代のイスラエルの礼拝の姿が、ありありと心に浮かんでまいります。

## 二、1〜2節

1〜2節に「詩篇幸いなことよ。そのそむきを赦され、罪をおおわれた人は。幸いなことよ。主が、咎をお認めにならない人、その靈に欺きのない人は。」とあります。ここに、32篇における最も

重要なこと、最も重要な教訓が、賛美とどうかたちで語られています。作者は、背きの罪を赦され、罪が覆われることによって主との関係が回復したという感動に浸り、賛美をささげています。

## 三、3〜4節

では作者は、背きの罪の赦しを得るまで、どのような苦しみを味わったのでしょうか。過去を回想して語っています。3〜4節です。「私は黙っていました。ときには、一日中、うめいて、私の骨々は疲れ果てました。それは、御手が昼も夜も私の上に重くのしかかり、私の骨髄は、夏のひでりでかわききったからです。」この聖句には解説が必要ですが、ここで作者が語っているのは、罪意識のゆえにもだえ苦しむことも然る事ながら、もつと現実的な試練が襲っていたようです。3節の「私は黙っていたときには、一日中、うめいて、私の骨々は疲れ果てました。」そして、4節の「それは、御手が昼も夜も私の上に重くのしかかり、私の骨髄は、夏のひでりでかわききったからです。」は、病の中にあつた姿のようです。当時、病は罪を犯した結果であると受け止められていました。

## 四、5節

作者は身体が病に冒されたことから、自らの罪を自覚し、それを告白しました。5節です。「私は、自分の罪を、あ

なたに知らせ、私の咎を隠しませんでした。私は申しました。「私のそむきの罪を主に告白しよう。」すると、あなたは私の罪のとがめを赦されました。」これは、旧約に書かれている「福音」、すなわち「善き知らせ」です。

## 五、6〜7節

6節においてすばらしい告白をしています。「それゆえ、聖徒は、みな、あなたに祈ります。あなたにお会いできる間に。まことに、大水の濁流も、彼の所に届きません。」と。続く7節にも、主の力強い守りの言葉が書かれています。「あなたは私の隠れ場。あなたは苦しみから私を守り、救いの歓声で、私を取り囲まれます。」と。まさしく、旧約聖書に書かれている福音、善き知らせです。

## 六、8〜9節

8〜9節です。「わたしは、あなたがたに悟りを与え、行くべき道を教えよう。わたしはあなたがたに目を留めて、助言を与えよう。あなたがたは、悟りのない馬や驟馬のようであつてはならない。それらは、くつわや手綱の馬具で押さえなければ、あなたに近づかない。」とあります。『箴言』に書かれている、父が子に諭すような言葉です。

## 七、8〜9節

最後に、10〜11節です。「悪者には心

の痛みが多い。しかし、主に信頼する者には、恵みが、その人を取り囲む。正しい者たち。主にあって、喜び、楽しめ。すべて心の直ぐな人たちよ。喜びの声をあげよ。」とあります。「悪者には心の痛みが多い。」ですが、ここにも、昔の因果応報的な考え方——神は善人には褒美をもたらし、神に逆らうものは罰する——が表れています。「悪者には心の痛みが多い」と、たしかに思いたいところですが、この言葉は、どちらかと言えば、当たっていないのではないかと考えます。むしろ、ヨブ記に倣うなら「悪者、すなわち神に逆らう者には心の痛みが少なくない」「神に従う者には心の痛みが多い」と言えると思います。と言いますのは、新約聖書のテモテへの手紙第二3章12節にも、次のように書かれているからです。「確かに、キリスト・イエスにあって敬虔に生きようと願う者はみな、迫害を受けます。」と。そういう意味では「神に従う者は心の痛みが多い」と言わなければなりません。ですが、10節後半の「しかし、主に信頼する者には、恵みが、その人を取り囲む。」は、そのとおりですね。そして、11節の「正しい者たち。主にあって、喜び、楽しめ。すべて心の直ぐな人たちよ。喜びの声をあげよ。」もそのとおり。

信仰者は苦しんで祈り始めたとしても、最後は賛美に導かれます。アーメン、ハレルヤ、です。